

# 平和的戦士の養生

社長 オブスター 星

## △軍備を縮小する

ことによつて永く平和を保持しやうといふ主旨はまことに結構な語であつて、又軍備縮小そのものは軍備擴張そのものよりも無論好いことには違ひないだらうけれども、物には凡て一利一害が伴ふものであるによつて、擴張も絶対に悪いとは言へず縮小も必ずしも好いとは言へないのである。世界各國の歴史によつて見ても、軍備の擴張を圖つたが爲めに、國民がその負擔に苦しんで衰亡したといふ例は未だ聞かない、寧ろ軍備を忽ちにしたが爲めに亡滅したといふ事實を多く聞くのである。それは必ずしも敵國外患を俟つまでもなく、其の國自身が文弱に流れ、腐敗を來し、自滅を招いたとも見えるのである。羅馬の滅亡は斯くの如くにして生じ、又我が國に於ても國民の元氣の一番消滅した時代は戦國時代若くは秀吉の外征時代では無くして、寧ろ彼の「櫻かざして今日も暮しつ」と歌つた王朝時代や、或は久しく泰平に馴れた徳川末期では無かつたか。そう云つたからとて自分は決して軍國主義なる

るものを謳歌するのではない、否、人類の慘禍と悲痛事は

## △戦争と病氣の外

には有るまいとさへ思つてゐるのである。けれども世界の人が大戦の原囚を軍國主義なるものに歸して之れを思ひの餘り、國家及人類の生存上必要なる武備若くは兵事思想までも輕んじやうとする傾向には賛成が出来ない。次に徵兵制度を施して幾萬の壯丁を兵役に就かしむることは、其の爲めに國民の負擔を重くし生産力を減じ且つ彼等の志業を挫折せしむるものであると云つて其の微塵を論ずる者もあるやうであるが、然し其の人の一生若くは國家の大局より見れば、二ヶ年の兵役に於ける訓練が其の人の心身を剛健にし壽命を延ばし能率を増し、かくて大いに國家の生産力を殖すといふ結果を生ずるのであるから、國民皆兵主義の徵兵制度と雖も決して厭ふべきものではない。唯だ然し是等の壯丁をして朝から晩まで二ヶ年ぶつ通しに鐵砲を擔がせ戦争ごつこばかり繰り返させるといふことは、國際聯盟とか平和問

## △平和の軍さにも

從ひ得る勇士として訓練するに努め退營後にも必要な事務即ち簿記や機械の扱ひ方や、乃至農事知識を一通り授けるやうにしたならば、兵營内に於ける心身の鍛練と相俟つて極めて有爲な人物を養成する所以となり國家も永く繁榮を來すであらうと信じる。斯くの如き文化的軍人若くは平和的戦士を養成するに要する負擔の如きは國民の喜んで應ずべきものであらうと思ふ。

●米日と賓律比(米:日本)



米國比律賓を脅して曰く「若し我が投資の細をばなら頭上の鶯(日本)にやられて

### 古今東西

水泳ぎの高所飛込みは、曾つて本國の某る女流水泳家が九十尺の高い所から水中に飛込んで世界のレコードを作つたが此の八月東京月島の水泳場で百二十尺の高い帆柱から飛込みをやつて世界のレコードを破つた者がある。それは笹流流師範の梶原芳太郎氏で二十八才の快男である。百二十尺と云ふと淺草十二階より少し低い位の所だ。

司法省の調査によると、全國在監の囚人總数は本年七月末に四萬九千二百七十二人で前年の同期に比較すると四千五百四十四人の激減だと、右の内には外國人の在監者もあるが總數四十一人で一番多いのが支那人の三十七人で露西亞人が二人、伊太利人英國人各一人宛である。

國有鐵道の旅客は、一月にどの位あるか月々に依つて違ふだらうが今鐵道省の調査書を見ると本年六月中の旅客が二千八百三萬一千六百三十人になつてゐる。その収入が一千四百四十九萬八千六百五十八圓で前年の六月に較べると六千三百七十二圓の減少で之も肝果不況の結果だらうと推察してゐる。

朝鮮人と内地人とが、正式に夫婦になる事は今まで法律上許してなく皆な内縁の夫婦であつたが先頃朝鮮戸籍法改正があつて今後内地人ととの結婚を法律上許す事に成つた。これで戸籍上初めて日韓合婚が出来たのである。